五月十五

連達おかきてあるし、お心にかけられ、誠に有難く存じます。実は今日にでもしては、あんな物を差上げまして、と恐縮して居ますので、いま様用とあって、かえって恐縮とかいておりました次第、あの怪しげな当アパート住人をモデルにしてユーモアーと申すより、史談ー小説を書きたいと思っておりました。どうして雑用多く、筆が進まずにおりました。お来とりましたら、又お目をお通しなさいたいと思っておりました。

宗れるみ